

November 2019 No.1

A News letter from SCGO-JSOG Project  
on Women's Health and Cervical Cancer

# カンボジア 女性のヘルスプロモーションを通じた 包括的子宮頸がんサービスの 質の改善プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

PROJECT FOR IMPROVING THE QUALITY OF  
COMPREHENSIVE SERVICES FOR CERVICAL CANCER

## プロジェクト開始にあたって

日本産科婦人科学会(JSOG)とカンボジア産婦人科学会(SCGO)は2012年より学会間交流を開始しました。私たち学会間でこそできる、現地産婦人科医療のレベルアップの方策がないかと模索する中で、2015年10月から3年間、工場労働女性を対象にヘルスプロモーションと子宮頸がん検診、早期発見・治療のための体制整備のプロジェクト(「JICA 草の根技術協力事業」)を実施しました。JSOG初の国際協力活動でしたが、両学会の先生方の積極的な参加の結果、HPVテストによるがん検診と国立3病院での子宮頸部円錐切除術(LEEP法)による早期治療が開始されました。SCGOの学会活動の活性化と会員増加にもつながりました。

世界保健機関(WHO)は、2018年より子宮頸がんの世界的な排除を呼びかけ、HPVワクチン・がん検診・治療の3つの柱での世界戦略がたてられています。低中資源国でHPVテストによる検診の実施可能性を検証した国はなく、カンボジアのこのプロジェクトは世界的にも大きな注目を集めるようになりました。

これらの成果を踏まえて、「JICA 草の根技術協力事業」により、新しいプロジェクトが2019年11月から3年間の予定で始まりました。今回は、プノンペン市小学校教員を対象を広げ、効果的なヘルスプロモーションとがん検診対応能力の拡大を目指しています。ヘルスプロモーションを通じてカンボジアの女性たちに健康を包括的に考える「リプロダクティブヘルス」の意識が根付き、質の高い子宮頸がん検診体制整備につながることが期待されています。それぞれの学会にとっても、SCGOの自立に向けた組織強化が進み、JSOGも国内だけでは見えてこない、新しい学術上の問題点の発見や解決への研究が進むものと期待しています。

これから3年間、どうぞよろしくお願いいたします。

プロジェクトマネージャー 岡本愛光



## プロジェクトキックオフミーティング開催

2019年11月21日のプロジェクトキックオフミーティングに向けて、まずは準備会議が20日に開かれました。

カンボジア産科婦人科学会(SCGO)のカナル理事長、スン理事、ソッティ理事と共に、事業計画書を基により具体的な活動計画を立案、活動時期および実施者を決定していきました。日本側からは国立国際医療研究センター(NCGM)の藤田則子医師、春山怜医師、菊池識乃看護師が出席しました。

本プロジェクト活動に関して、カナル理事より教育省学校保健局、プノンペン市教育局へ連絡しプノンペン市学校長リストを入手したこと、国立5病院(国立母子保健センター、クメールソビエトフレンドシップ病院、カルメット病院、アンドウン病院、コサマック病院)での活動拡大について保健省、病院長への同意が済まされていることが確認されました。

そして21日に国立母子保健センターにて本プロジェクトキックオフミーティングが開催されました。

日本側からは横浜市立大学宮城悦子教授、藤田医師、春山医師、菊池看護師が出席、カンボジア側からはSCGOカナル理事長、スン理事、シム理事、ソッティ理事、前プロジェクトで日本産科婦人科学会(JSOG)から指導を受け育成された婦人科医師13名、本プロジェクトで育成対象となる婦人科医師16名が参加し、プロジェクトの実施体制や活動計画(活動時期および実務者)を発表しました。



写真上:キックオフミーティング準備会議

写真下:キックオフミーティング準備会議  
ホワイトボードを使い情報の整理・共有



写真上:キックオフミーティング当日。既存のメンバーの他に新規実務者も加わり活発な議論が繰り広げられました。

2020年8月に小学校教員への健康教育を開始することを目標に、2~4月にかけて教員のニーズ調査、5~7月にかけて教育プログラムの改良を行っていきます。健康教育プログラム開始後、2020年11~12月に自己採取HPVテストのfeasibility(実現可能性)研究を実施予定。その他、新しい実務者への指導、クメールソビエト病院へのHPVテスト機器の導入、検診台帳のクリーニングと分析を進めていく事が確認されました。

これまでの子宮頸がん検診の対象者を工場労働者の女性から小学校教員・保健省職員に移行するにあたり、受診者の教育をこれまでの助産師から産婦人科医師に移行する必要があると、カナル理事長が実務者医師へ役割について説明。地方ではVIAスクリーニングで陽性者へのThermal Ablationが考慮されているが、中央からより精度の高い検診法を導入し展開していく必要があること、HPV自己採取のパイロットスタディーを実施することが伝えられました。

## 第18回カンボジア産科婦人科学会シンポジウム開催

11月22日から2日間に渡り、プノンペンホテルにて第18回カンボジア産科婦人科学会シンポジウムが開催されました。

SCGOカナル理事長とNCGM藤田医師による「JSOG・SCGOの3年間の取り組みと今後3年の計画について」の講演の後、横浜市立大学宮城教授が子宮頸がん検診・HPVワクチンの世界情勢や日本の現状、自己採取HPV検査の問題点などの包括的子宫頸がん予防について講演を行いました。

会場にはほぼ満員の200人以上の産婦人科医師と保健省の子宮頸がん対策担当官、カンボジアWHO国事務所NCD(非感染症疾患)担当官も参加し、総合討論も行われました。特に2021年12月からGAVIの援助で開始される9歳女兒に対するHPVワクチンプログラムに向けて多くの質問がありました。



写真左：  
講演を行う  
横浜市立大学  
宮城悦子教授



写真右：  
国立国際医療  
研究センター  
藤田則子医師

第 18 回カンボジア産婦人科学会年次総会年次学術総会に参加して

日本産科婦人科学会 特任理事  
(子宮頸がん検診・HPV ワクチン促進担当)  
横浜市立大学 宮城 悦子

カンボジア産婦人科学会 (SCGO) と日本産科婦人科学会 (JSOG) の協力プロジェクトの一環として、2019 年 11 月 20 日より 3 日間、学会参加のみならず全く予想していなかった素晴らしい多くの経験をさせていただきましたので、報告させていただきます。

初日の夜から、このプロジェクトに長年ご尽力されている国立国際医療研究センターの藤田医師・春山医師・菊池看護師、JSOG の事務局の加藤さん・高橋さんと一緒に、プロジェクト概要についてお話をうかがいました。工場で働く女性に子宮頸がんとその予防の教育を行い、実際に HPV テストの陽性者にコルポスコピーを行い有所見の女性には LEEP で治療を行い完結するという、画期的な子宮頸がん検診のプロジェクトが 3 年の区切りを迎え、次の 3 力年は小学校の教員を対象とした子宮頸がん検診を SCGO-JSOG プロジェクトとして行っていくという壮大な計画を知り、心から感動しました。

滞在 2 日目 11 月 21 日は、クメールソビエトフレンドシップホスピタルを訪問し、病院内を視察させていただきました。周産期の母子の死亡率が激減してきたとは言え、診療記録がないに等しいこと、看護師の不足により病院で家族がその役割を担っていることなど、まだまだ先進国が援助すべきことが多々あることを痛感しました。その後、現地事務局の佐野さんも合流し、カンボジア保健省の保健サービス担当事務次官 EngHout 教授を SCGO 会長 Kanai 教授とともに表敬訪問させていただきました。

午後からは、国立母子保健センターにおいて今後 3 年間の新規事業のキックオフミーティングにも参加しました。新規事業のタイムスケジュールなどが話されました。プノンペンで働く女性医師は、皆様とてもファッショナブルかつ活発で、目を奪われました。



カンボジア・日本の子宮頸がん予防女性チーム集合



SCGO のシム理事から宮城教授へ感謝状贈呈

最終日 11 月 22 日は、第 18 回カンボジア婦人科産科学会シンポジウムに出席しました。SCGO Kanai 会長と藤田先生からの JSOG・SCGO の 3 年間の取り組みと今後 3 年の計画についての講演の後、子宮頸がん検診・HPV ワクチンの世界情勢や日本の現状、自己採取 HPV 検査の問題点などの包括的子宫頸がん予防について 60 分の講演を行いました。会場はほぼ満員、200 人以上の産婦人科医師と保健省の子宮頸がん対策担当官、カンボジア WHO 国事務所 NCD 担当官も参加し、活発な総合討論も行われました。特に 2021 年 12 月から GAVI の援助で開始される 9 歳女児に対する HPV ワクチンプログラムに向けて多くの質問があり、大変な熱気を感じました。多くの医師が、カンボジアでの HPV ワクチンプログラムを成功させ、WHO の目標 90%接種率を達成するという気概に溢れていました。

午後から JICA 事務局を訪問し、三浦次長、小笠原アドバイザー、小川コーディネーターと面会し、JSOG・SCGO の 3 年間の取り組みと今後 3 年の計画の報告と実務面の打ち合わせに同席させていただきました。多くの展示物の中、JSOG-SCGO の事業報告もしっかりと展示されておりました。

同行していただいたメンバー、現地の皆様の”カンボジアの女性を子宮頸がんから守る”という大きな目標への熱意に打たれ、自分のライフワークとする日本における同じ目標への新たな取り組みをあれこれ考えながら帰国いたしました。大変お世話になりました全ての関係者の皆様に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

## カンボジア保健省 EngHout 事務次官を表敬訪問

11 月 21 日、日本からの訪問団一行が SCGO カナル理事長と共にカンボジア保健省保健サービス担当の EngHout 事務次官を表敬訪問しました。

SCGO カナル理事長から、JSOG と SCGO の 2015 年～2018 年までの工場就労女性の HPV プライマリー検査とコルポスコピーによる子宮頸がん検診と LEEP による早期治療の事業の報告と、2019 年～2022 年までの事業予定について報告しました。引き続き健康教育から検診まで包括的に活動を行うこと、特に今後 3 年間は小学校教師へ対象を拡大し、国立 5 病院での子宮頸がん検診対応能力の拡大を通じて保健省の子宮頸がん対策プログラムの全国展開に向けた準備に貢献することを説明しました。特に、ハイリスク HPV 陽性女性の保険診療の問題や地方でのがん診療対応にむけた保健省の方針(首都 2 か所から地方でのがんセンター設置計画、診断治療に必要な人材育成、特に病理臨床検査技師、病理医師の教育の重要性)などが話題になりました。



写真上: EngHout 事務次官を囲んで記念撮影(前列中央)



写真右: 日本から持参したお土産を宮城教授から EngHout 事務次官へ

## プロジェクトを取り巻く動き

- 11/17-22: 春山怜医師カンボジア派遣
- 11/17-23: 藤田則子医師カンボジア派遣
- 11/18: 地方保健センター勤務助産師に対する VIA の指導講習会の見学、保健省の子宮頸がん対策担当官との面談
- 11/19-12/4: 菊池識乃看護師カンボジア派遣
- 11/19: WHO 国事務所非感染性疾患(NCD)担当官との面談
- 11/20-22: 宮城悦子教授カンボジア派遣
- 11/20: キックオフミーティング準備会議
- 11/21: 宮城教授メールソビエトフレンドシップホスピタル訪問、Dr.Kyna, Dr.Maryan と面会、病院内視察
- 11/21: カンボジア保健省 保健サービス担当事務次官 EngHout 教授と面会
- 11/21: 本プロジェクトキックオフミーティング(国立母子保健センターにて)
- 11/22-23: 第 18 回カンボジア産科婦人科学会シンポジウム
- 11/22: JICA カンボジア事務所訪問